

R7年度第2回 生徒による授業評価 教科ごとの分析結果

生徒による授業評価(第2回)を、11月13日～12月12日の間に実施しました。

次の質問について、かなり当てはまる(4点)、ほぼ当てはまる(3点)、あまり当てはまらない(2点)、ほとんど当てはまらない(1点)として点数化し、平均をグラフとして表示しています。(4点満点)

【質問項目】

Q1:毎時間の授業や単元(内容のまとめ)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。

Q2:単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。

Q3:単元(内容のまとめ)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある

Q4:授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた

Q5:他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた

Q6:授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた

Q7:授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた

		結果の分析	これからの取組
国語		<p>全体としては、どの項目についても、8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答し、授業に対する不満は感じられない。その一方で、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」、「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた」、「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた」の三項目において自己評価の項目がやや低い生徒が見受けられ、発展的に学習していくことの困難な生徒の存在が浮き彫りになった。</p>	<p>深く理解し、発展的に学習していくことのできる生徒とそうした学習が困難な生徒の両極がいることが浮き彫りとなっている。その上で、発展的に学習のできる生徒をさらに伸ばす指導と、基礎的学習の反復が必要な生徒への二方向の指導が必要であることを踏まえて、課題の与え方や発問の仕方について工夫する。また、生徒同士で教えあい、発展させる手立てを考える。</p>
地理歴史		<p>すべての項目についても、生徒たちは8割以上が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と授業を好意的に受け止めている。とくに授業ごとや単元ごとの学習のねらいの理解・振り返り、またそれらをそれ以前の学習内容と結びつけることができたという点の評価が高い。</p> <p>一方で、他者の考えを知り自分の理解を深められたことや、授業で身に付いたことに対する実感はやや低い。</p>	<p>他者理解を深めるため「他者の考えを知る機会がある」の数値を今後上昇させたい。そのため、各科目で他者理解を深める時間を設けて積極的な授業を展開する必要がある。</p> <p>また、学習内容の定着度合いが低く、前回のテスト範囲の学習内容も抜けてしまう生徒も多数いるため、今後の課題として学習内容の定着も課題と考える。</p>

<p>公民</p>		<p>全体としては、およそ8割以上が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と選んでおり、生徒たちはおおむね授業に好意的である。詳しく分析すると、授業でできるようになった実感が相対的には低めではある。一方で、「自分の考えをまとめたり解決方法について考える」「他者の考えを知り、自らの考えを深め広げる」点については評価が高かった。</p>	<p>生徒が授業でできるようになったという実感を得るためには、学んだことを再確認させる場面が必要であると考えられるためその機会を設けたい。 また、毎時間実施しているGoogleフォームによる意見共有が効果的だったため、今後も継続するとともに、さらにより良い意見共有の手段を探っていく。</p>
<p>数学</p>		<p>すべての項目で、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が第1回より第2回の方が高く、生徒がより前向きに取り組んでいると分析することができる。 Q5においても「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が、83%と改善した。生徒間で教えあう時間の効果が見られた。 Q1の割合も5ポイント増加した。学習のねらいを示したり、問題演習等で復習の機会が増えた結果と思われる。</p>	<p>第1回と同様に、生徒間で教えあう時間を作ることで、問題演習の時間を確保すること等を継続していきたい。 また、数学が苦手な生徒には、わかりやすい授業を展開していくことを心がけたい。</p>
<p>理科</p>		<p>すべての項目で「かなり当てはまる」または「ほぼ当てはまる」が8割を超えており、高い評価であった。特に、授業ノート(ポートフォリオ)によるルーブリック評価を通じた学習活動、授業ごとの振り返りシートを活用した振り返り活動等により、生徒が授業のねらいを理解したものと考えられる。</p>	<p>ICTの利活用について、一人一台端末を活用して振り返りを行わせたり、表計算ソフト等により実験のデータ処理をさせたり、生成AI等を活用した授業等について検討する必要がある。</p>
<p>保健体育</p>		<p>すべての項目について、9割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答している。第1回では「単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知ることなど、自らの考えを広げ深めることができた」という項目がやや低かったが、ペアやチームでの活動において生徒同士で意見を出し合いながら行う活動の時間を取りながら実施できていた結果だと考えられる。</p>	<p>第1回から引き続き、特に体育において、新たな技能を学習する際やペアやチームで活動する際に、活動内容の工夫や試合に向けた作戦を考える時間を設けるなど、生徒同士で意見を出し合いながら行う活動の時間を増やし、他者の考えをもとに、自らの考えを広げ深めることができるようにする。</p>

<p>芸術</p>		<p>Q3,4の項目において数値が高い結果となった。Q3は第1回の結果よりも数値が伸びており、生徒が自分なりに解決方法を考えて課題に取り組んでいる結果が表れている。また、Q5～7の回答は約8割が「当てはまる」と答えており、自ら考え課題解決に向けて学んでいる生徒が多くいると捉えることができる。しかし、芸術科目において実技に苦手意識を持っている生徒は一定数いるため、深い学びに至る仕組みづくりを行う必要がある。</p>	<p>引き続き生徒が自ら考えながら、粘り強く課題に取り組むことができるよう、単元の思考の過程がわかるワークシートや展開を工夫する。ワークシートに残すことにより、生徒自らの学習を可視化し課題意識を持って取り組むことが期待される。また、ワークシートの評価を行うことで、生徒へのことばがけや授業改善に活かしたい。</p>
<p>外国語</p>		<p>すべての項目において、4「かなり当てはまる」、3「ほぼ当てはまる」と答えている生徒の数が第1回に実施したアンケート結果よりも少しずつ上昇しており、90%前後に達している。前回若干低かったQ5の結果も、依然として他の項目よりは低いながらも、4ポイント上昇している。指定校事業の今年度の研究課題である、「ICTを有効活用した、深い学びにつながる対話的な学び」に則って授業改善に取り組んでいる成果が現れており、授業に対する生徒の満足度がさらに高くなっていることを表していると考えられる。</p>	<p>分析結果から、現在進めている授業改善の方向が概ね正しいと判断できる。今年度の残りの授業においても、生徒の理解度を上げるための分かりやすい解説やパターン練習を増やすこと、「他者の考えを知る」活動を行う時間のバランスをうまく取りながら、引き続き授業の内容や活動を工夫し、特に生徒同士の対話を積極的に取り入れ、意見を交換したり、相互に教え合うことなどを通して、自身の理解や考えを深める機会をさらに増やしていきたい。</p>
<p>家庭</p>		<p>全ての設問において、約90%以上の生徒が「かなり当てはまる」、「ほぼ当てはまる」と回答しており、高い評価であった。家庭基礎では、2学期に被服実習と調理実習があり、保育基礎においても校外での保育実習やグループ活動が多くあった。このような実践的な学びから、自分自身の課題を見つけ、課題解決に向けて自分自身の考えを持つ機会が多く、今回の結果につながったのではないかと考える。</p>	<p>実習の有無にかかわらず、グループワークや生徒ととの対話を心掛けながら、自分自身と他者との意見共有の場を大切にし、より深い学びになるよう授業に取り組みたい。</p>
<p>情報</p>		<p>すべての項目で、4:かなりあてはまる・3:ほぼあてはまるの項目が高い割合を占めていることから、授業評価としては概ね満足していると考えられるが、8割程度の満足度の項目と9割程度満足度の項目など項目ごとに差があることがわかる。</p>	<p>「他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。」の項目及び「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」という項目について、対話的な学びを授業内で取り組むことで、評価の変容を見ていきたい。</p>